

Title	長期生存可能な経営戦略に関する考察
Sub Title	
Author	崔載晃(Chie, Zehoan) 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1356号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1356

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

長期生存可能な経営戦略に関する考察

本研究はこれからの企業が長期生存を実際に可能とするための経営戦略とは如何なるものかを発見し、分析を試みるのである。企業は永続することを前提に経営活動をするが、実際には企業の平均寿命はおよそ30年であるといわれる。ここで長期生存型企業は企業創業以来、倒産することなく、健全に成長を続けることを意味する。しかしながら人間と同様に余中で病気をすることもあるが、長期生存型企業は病気を克服する能力（ストックされたシステム力）が備わっている企業である。それを実現させるため、経営理念部門、経営スタイル部門、経営システム部門、経営資源部門という四つの部門に分け、長期生存型企業の仮説を立つのを試みた。仮説としては『長期生存型企業は経営理念を維持し、社員全員と価値観を共有する』、『長期生存型企業は安定成長を目指し、売上拡大志向を排除する』、『長期生存型企業では環境変化への適応力が優れている』、『長期生存型企業では経営陣を社内育成する』である。その仮説を検証するため、仮説に基づいたアンケート調査を実施し、145社の中50社が回収され、経営理念 [40%]、経営スタイル [20%]、経営システム [20%]、経営資源 [20%] のウェイトを付け、全ての企業が100点法で評価された。その評価方法でキャノン（株）が選ばれ、事例研究として分析を試みた。まず、キャノン（株）を分析すると長期生存型企業の仮説を満たすところがかかなり多かった。本研究においてキャノン（株）が長期生存型企業への経営戦略を取っているのを検証することができて、ある程度長期生存型企業への経営戦略を立つのが可能になった。今後、ますます激しく変化する経営環境こそ、こうした長期生存型企業的な観点からの経営戦略、すなわち、長期的な観点からの経営を取るべきであり、21世紀に向けてモノよりヒトを重視する長期生存型企業への経営により力を入れ、より精神的に豊かな世界を作るのが大事であろう。